

## FLORA of KOCHI

No.35

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

探してみよう！ 秋編

## アキノハハコグサ (キク科)

*Gnaphalium hypoleucum* DC.

アキノハハコグサはやや乾いた山地に生える一年草～越年草で、本州～九州、朝鮮、中国、東南アジア、パキスタン、ブータン、ネパール、イランに分布します。環境省 RDB (2014) で絶滅危惧 I B 類に指定され、100 年後の絶滅確率 100% と推定されています。

花は日本では 9～11 月に咲き、黄色です。ハハコグサ属の植物にはふつうその時期に黄色い花が咲くものはありませんので、容易に区別が出来ます。しかし、稀に秋にハハコグサが咲いていることがありますので、表 1 を参考に特徴を確認して下さい。

高知県では山地の法面の岩上などで採集されています。痩せた草地や裸地、崖地や崩壊地に先駆的に出てきますので、探す際の参考にして下さい。



生育地の様子 (2009年10月)



花

表 アキノハハコグサとハハコグサの区別点

和名	葉の綿毛	分枝
アキノハハコグサ	裏のみ	中部より上でよく分枝する
ハハコグサ	表・裏両方	ふつう中部で分枝しない

## シバネム (マメ科)

*Smithia ciliata* Royle

シバネムはマメ科の一年草で、日当たりのよい原野に生育します。日本では本州近畿地方以西、四国、九州、海外では中国 (本土・台湾)、東南アジア、インド、ヒマラヤに分布します。近年高知県では旧窪川町、旧佐賀町の 2 地点で生育が確認されています。

開花期は 9～10 月。淡い青紫色の花で上唇は下

唇より大きくなります。開けた場所では茎は地面を這いますが、少し藪のようになっている場所では立ち上がります。

葉は 3-7 対の小葉がつき、花は短い総状花序で、1 箇所にたまってついているように見えます。



旧佐賀町の生育地の様子



旧窪川町の生育地の様子



シバネム(2010年11月9日)



# 高知県の植物 ニュース

## ■ 四国初確認シテックモキリ（ラン科） *Liparis purpureovittata* Tsutsumi, Yukawa et M.Kato

文：国立科学博物館植物研究部 堤千絵

本種は2008年に新種として発表されました (Tsutsumi et al. 2008)。発表前は、ちょっと変わったクモキリソウとして、一部の間ではアズミクモキリ、チクマジガバチ、ナンブクモキリ、フガククモキリなどの名前で知られていましたが、実体がよくわからず正式な名前がないままでした。遺伝子の情報を調べてみると、これまで知られているクモキリソウ属のどの種とも一致せず、形態も他のクモキリソウ属の種と区別できることから、新種として発表するに至りました。唇弁に紫色の点（シテン）があることが名前の由来です（写真1）。



写真1 シテックモキリの花（2015年7月2日）



写真2 自生地でのシテックモキリの様子（2015年7月2日）

シテックモキリは湿地を好んで生えます（写真2）。他の草本植物にまぎれているため、花があっても見つけるのは難しいです。花がなければさらに難しく、葉だけではクモキリソウやスズムシソウと区別が付きません。しかし、花をみればどちらとも異なることがわかります。

特に似ているのはクモキリソウですが、唇弁の中央や萼片が紫を帯びること（緑色の個体もある（写真3）、クモキリソウは緑色（写真4））、正面からみると、唇弁がほぼ四角形に見えること（クモキリソウは三角形に見える）、唇弁の先端がほとんど反り返らない（クモキリソウは反り返る）、クモキリソウよりも花がややまばらにつくなどの点で見分けることができます。他にも、側萼片の幅がクモキリソウよりずいぶん広いのですが、通常巻いているので、野外でその違いはわかりません。ちなみにクモキリソウは自ら自家受粉しがちで多数の果実が見られますが、シテックモキリはそのような性質はありません。



写真3 紫点のないシテックモキリの花（2015年7月2日）

### 四国のシテックモキリ

今回シテックモキリとされた個体は、2007年に愛媛県で萩野善久氏により発見されました。萩野氏によれば当時は新種としての発表もまだであったため、不明のクモキリソウと考慮されました。2013年になってWEB上の情報でそれがシテックモキリであると気づかれたそうです。本年萩野氏同行のもと牧野植物園が標本を採集、堤氏の同定によりシテックモキリと確定しました。

自生地の環境は、高標高の林縁のやや湿ったところでした。花期は6月下旬から7月上旬。その時期を逃すと確認が難しくなります。また、堤氏によれば、紫点がないタイプのシテックモキリもあるそうですので、他の形態の観察も必要です。（前田綾子）

四国でのよく似た種との違いをあげると、フガクスズムシソウ（写真5）はすべての花被片がふつう紫色で、樹上に着生して生育する点で異なります。スズムシソウやセイタカスズムシソウ（写真6）とは、葎帽の先端の形が見分けるポイントとなります。クモキリソウやシテックモキリは、伸びずに栗のような形をしています。スズムシソウでは長く突出します。

これだけ違いを列挙しても、やはりシテックモキリの分類は難しいでしょう。系統を調べると、クモキリソウやフガクスズムシソウのグループと1つにまとまりますが、変異が多く遺伝的には明らかに他の種とは分化しています。

クモキリソウ属は非常に分類が難しいグループです。クモキリソウやスズムシソウは葉だけでは区別がつかない上、花も頻繁に見られるわけではないので、いまなおいくつか見逃されたままの種があると考えられます。スズムシソウやセイタカスズムシソウにも大きな混乱があり、これらはどうも3種からなることがわかってきています。こちらもいずれ正式にご報告致します。

【引用文献】

Tsutsumi, C., T. Yukawa and M. Kato. 2008. *Liparis purpureovittata* (Orchidaceae) - a new species from Japan. Acta Phytotax. Geobot. 59(1): 73-77



写真4 クモキリソウ (撮影：小林正典氏)



写真5 フガクスズムシ



写真6 セイタカスズムシソウの一型

■ タンポポ調査・西日本2015終了しました

文：田邊 由紀

西日本19府県で一斉に行われたタンポポ調査・西日本2015が5月末で終了しました。高知県では282名の方々により、7,658個のサンプルが集まりました（有効サンプル数7,547）。調査ボランティアの皆様をはじめ、多くの方々のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

今回の調査で確認されたのは、在来種10種類（うち国内からの移入と思われるもの3種類）、外来種2種類、推定雑種1種類（在来総苞型外来種）の計13種類です。サンプル数はセイヨウタンポポが最も多く、次いでシロバナタンポポ、アカミタンポポの順で、外来種がサンプル数の半分以上を占める結果となりました（表）。

今後さらに詳細なデータの解析を行い、調査結果を報告書にまとめ、来年3月26日開催の「タンポポ調査2015報告会」で報告します。また、2月20日からの牧野植物園企画展「すみれ・たんぽぽ展」でも調査結果を公開しますので、皆様お誘い合わせの上ご参加ください。

表 タンポポの種類別サンプル数と割合

在来・外来	種類	サンプル数	(%)
在来種	シロバナタンポポ	2,516	(32.86%)
	クシバタンポポ	161	(2.1%)
	キバナシロタンポポ	120	(1.57%)
	カンサイタンポポ	51	(0.67%)
	キビシロタンポポ	20	(0.26%)
	トウカイタンポポ	14	(0.18%)
	ツクシタンポポ	11	(0.14%)
	シナノタンポポ	10	(0.13%)
	ヤマザトタンポポ	7	(0.09%)
	エゾタンポポ	2	(0.03%)
外来種	セイヨウタンポポ	2,655	(34.67%)
	アカミタンポポ	464	(6.06%)
	外来種(不明)	877	(11.45%)
	在来総苞型外来種*	639	(8.34%)
	不明(花なし)	111	(1.45%)
計		7,658	100

\*在来総苞型外来種は、総苞外片が上向きになる外来種と在来種の推定雑種または外来種と考えられるもの。

# information

## ■ 平成 27 年度 分類学セミナーのお知らせ

平成 27 年度後半の分類学セミナーは下記予定で開催します。

植物の初心者歓迎！お友達やご家族など、お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。

### マメ科の中のササゲ属 (内容：初級)

講師：立石庸一氏 (琉球大学名誉教授)

**10月12日 (月)**

場所：本館アトリエ実習室

時間：10:00～12:00

定員：30名

お申込は、下記まで。

- ☉ メール：田邊(kurahashi@makino.or.jp)  
馬場(yumiko.baba@makino.or.jp)
- ☉ 電話番号：088-882-2673 (標本庫直通)
- ☉ FAX 番号：088-882-8635 (代表)

※セミナー直前に詳細をご案内しますので、必ずご連絡先をお知らせ下さい。

※セミナーのみの参加は入園料無料です。

本年度、標本教室は開催しませんが、標本作製について疑問点などがあれば、講師や田邊がお答えします。

## ■ タンポポ調査・西日本 2015 報告会

タンポポ調査・西日本 2015 の調査結果の報告を下記日程でおこないます。タンポポ研究の第一人者である森田竜義氏 (新潟大学名誉教授) による講演もあります！日本のタンポポ属について、高知県に多く分布するシロバナタンポポを中心にお話し頂きます。一般公開の講演会です。お誘い合わせの上ご参加下さい。

日時：2016年3月26日 (土) 10:00～12:00

場所：高知県立牧野植物園・本館映像ホール

定員：80名 (先着順, 申し込み不要)

※講演会のみの参加は入園料無料。

※園内を散策される方につきましては入園料は規定に従って必要になります。

## ■ 第 2 回 スナジマメ調査

第 2 回スナジマメの探索調査を、南国市物部から前浜の海岸付近で実施します。皆様どうぞご協力下さいませようお願い致します。

集合日時：2015年9月27日 (日) 9:00

集合場所：物部川河口トリム広場駐車場

※小雨決行 (豪雨・台風の場合中止)

※12時半終了予定

## ■ 植物に関する問い合わせ

毎週火曜日 (休日の場合はその翌日) に植物研究課の田邊、前田が高知県の植物のお問い合わせに対応しています。写真では同定できない種類がありますので、押し葉状態 (仮押しでも結構です) にしたものを持ち込まれるか、お送り下さい。

植物に関する知識全般への相談は、月・水・金の 16時から 17 時まで、教育普及課の職員が対応しています (Tel:088-882-2723)。

## ■ 編集後記

本号の「高知県の植物ニュース」では、シテクモキリについて国立科学博物館植物研究部の堤千絵氏に話題提供を、萩野善久氏・鈴子氏に情報提供を、小林正典氏に写真をご提供頂きました。皆様に厚く御礼申し上げます。

ところで、スナジマメが見つかりません。過去の標本に書かれている生育地には、砂地、海岸、果樹園があります。昔は防風林と砂浜の間に生えていたと考えられますが、今高知県中部でそんな環境は残っているのでしょうか？しかし、まだまだ探索が足りないだけと信じて探し続けたいと思います。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

No.35 の発行担当：前田綾子・田邊由紀・藤川和美

★原稿募集中心！高知県の植物に関するニュース、トピックお待ちしております。



高知県立 牧野植物園  
The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

〒781-8125 高知市五台山 4200-6  
TEL:088-882-2601/FAX:088-882-8635  
http://www.makino.or.jp/

【本号の内容についてのお問い合わせ】  
前田 (ayakom@makino.or.jp)  
田邊 (kurahashi@makino.or.jp)  
まで